



サインもゼッケンも筆で入れちゃえ!

フリーハンドレタリングは当然マスキングなしで、油性のダークグラフで下書きするだけ。で、レタリングエナメルと筆でぐいぐい描いていく。筆の種類は、書体や大きさに変えたりする。'86年風のサイドには、本人のサインに似せた細いレタリングを入れた。また、'86年風はヘンリーさん本人にペティさんが使用許可をもらった星型の「1」の点に於いて。これだけで、けっこうサマになるから不思議。「やっても楽しいよね。値段? これだけなら1個で数千円じゃないの。1万円はいかない。時間もかからないし」だって。……だったらと思う人も多いでしょ。詳しくは問い合わせはいいけど、こういうリアルなリアルさもあるフリーハンドレタリングのいいところなんだ



Eddieが入れば気分最高!!

エディ・ローソンのヘルメットは、やっぱりひとつの指針だと思う。簡単なカラーリングなのに印象深い。それを演出したのがフリーハンドレタリング。で、M3Jにあの頃のエディさん風に文字を入れてみたら……。

年式で書体が違うんだよ、実はね



上はヤマハのGP時代。おでこのステッカーが大きい。ダイネーゼのツナギにもBELLのワッペン。下は'82年AMA。'82年でも白部分がないタイプもあった

「カワサキ時代とヤマハ時代じゃ、レタリングの書体が全然違うんだよ。カワサキ時代は少しやばってたくて、ヤマハの'86年テイナナのバイクにあるEddieは、僕のお師匠さんのヘンリーさん(故ヘンリー・F・カウト)が現場で描いたものだ。ヘルメットの後ろはブロック体で、横のはたが、エディ本人のサインを転写したものだ(うむ)」。とマテックに分析するのは、ベティ・ヘンターズ・パラダイスの鈴木貞好さん。で、まんまレプリカだとM3Jでは、このカラーリングでEddieの文字が入っていないとか、成り立たない部分もでてくるので、ここは雰囲気重視で、フリーハンドレタリングでEddieを入れることにした。まあ、あの頃にローカトラックで、ちよとボロい遅遅れのスーパーバイクに乗っている、別のEddieさんといふことも……。

ポイントには書体の書き分け。81年カワサキ風カラーには、'82年辺りですった書体。'86年テイナナ風には、ヘンリーさんが得意とした「ヨシヤ」ジースタイルの文字だ。

この「ヨシヤ」ジースタイルは、現在ベティさんが得意とするスタイルとは違う。また、カワサキ時代風の文字によくある影を添えて入れた。それとサイドには、ゼッケンの21。この数字もキチンとしたものじゃなく、現場でフリーハンドで入れてもらった風にした。ヤマハFZ風では、本物はマルボロやミネソタのステッカーがあるし、サイドのBELLももともと小さいけど、それはレプリカじゃないから。だいたい本物の正面のBELLは特大で、その大きさも微妙に変わってるからね。

本物はM2といったら、ヤマハ時代はスペシャルのカーボンだし、アイポイントなんかも本人の注文もあったらしいから。まあ、今回はあくまであの頃風でね。でも、レタリングだけで雰囲気、出るでしょ!!